
secret

konoha

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

s e c r e t

【Nコード】

N 0 8 3 5 D

【作者名】

k o n o h a

【あらすじ】

アメリカに旅立った彼の帰りをひたすら待ち続ける私。一ヶ月後に彼はようやく帰ってきたが、そこにはある秘密があった。

（前書き）

よかったら読んでみてください。

月明かりが静かにこぼれる真夜中。私は何度も彼と抱き合っていた。

愛しい温もり。それをもう手放さないように。

「ずっと逢いたかった。やっと帰ってきてくれたのね」

「ああ。心配かけてすまなかった」

懐かしい声の主は、かつてと同様に、数えきれないほどのキスをくれた。

私は彼を引き寄せ、きつく抱き締めた。二人の距離が縮まっていく。

そうしているうちに、部屋に甘い吐息が漏れるようになり、私は幸福な思いを抱きながら、目を閉じた。

彼がいなかった一ヶ月。それは苦しみ以外の何物でもなかった。

彼は売れっ子の作曲家で、数々のアーティストに楽曲を提供する多忙な日々を送っていた。

だが最近、彼はこれまでも増してひどく疲れ果てていた。

新しい曲が作り出せない。その苦しみは、日々募っていった。

そんな彼を心配していたが、そのたびにこう言われた。

「大丈夫だよ。こんなことは、よくあるから」

だがその言葉とは裏腹に、彼は日増しに元気を失っていった。

彼がアメリカに経つと口にしたのは、ちょうどその頃だ。

いつになく晴れやかな笑顔で、こう切り出した。

「見知らぬ地へ行けば、何かいいアイデアが浮かぶかもしれない」

彼の口調が明るいものだったので、私は反対しなかった。

だが予定されていた帰国日から、一週間が経ち、二週間が経っても

彼は帰ってこなかった。

不審に思い、電話を掛けたが繋がらない。

「どうして・・・」

眠れない日々が続いた。彼の身に何らかのトラブルが起こったのか？

それでも、私はひたすら彼の帰宅を待ち続けた。

そしてそれから一ヶ月が経過した。私はそれまでに感じていた寂しさをぶつけ、彼は受け止めてくれた。

だが、なぜか私の目から涙が溢れた。喜びではなく、悲しみの。

「あなたは・・・あの人じゃない」

私は目が見えない。だが微妙な違いを、心で感じ取ることはできた。

「あなたは、あの人の弟さん、よね」

長い沈黙が部屋を包む。私はどうにかして声に出して言った。

「あの人は、どこ？」

「ビルから飛び降りて亡くなった」

しばらく間を置いて、彼は言った。

「あなたはそれを、知っているはずだ」

そうだ。本当はずっと前から知っていたが、事実を認めたくなかった。

なおも涙を流す私に、
彼は言った。

「君がひどく落ち込んでいると聞いて、訪ねてきたんだ。何か力になれないかと、思って」

「私はこれから、何を支えに生きていけばいいの？」

答えはいまだに見えない。

私は彼の胸に顔を埋めた。そして、
気がすむまで、ただただ泣き続
けることしかできなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0835d/>

secret

2010年11月24日06時07分発行